

# 図書館だより

NO.30

令和5年2月1日発行  
函館工業高等専門学校



図書委員メンバーで

## 目次

図書館の魅力と思い出	1
特集 学生の読書感想文	2・3
退職教員の読書のすすめ	4
本校教員執筆図書紹介	4
「教員推薦図書」コーナー	4
新任教員からのおすすめ本	5
図書委員会の活動報告① ブックハンティング	6
図書委員会の活動報告② LL文庫企画展示	7
私の好きな本	8
Global Cafe	8
学年・学科別利用状況	8
編集後記	8

## 図書館の魅力と思い出

学校長 阿部 恵

図書館は私にとって大切な場所の一つであり、居心地のよい空間でもある。私の人生で一番時間を費やした図書館が、600万冊以上の蔵書を誇る米国オハイオ州立大学の図書館である。その図書館の魅力と思い出を語ってみたい。

それは今から約30年前、留学していた頃の話になる。早朝、授業前後、夜と一日に何度も、そしてほぼ毎日私は図書館に通った。当時、オハイオ州立大学では約6万人の学部生・大学院生が学んでおり、中でも私が学んでいたコロバスキャンパスには約30館もの図書館があり、学生たちがどの図書館でも一生懸命勉強していた。

図書館の魅力の一つは情報収集である。大学にはリサーチハブとしての役割があり、学生が研究を遂行できるように、多くの検索リソースと論文を所有している。当時、論文は電子ジャーナルではなく紙媒体であった。そのため、授業担当教授が出す課題の論文は図書館に保管されていて、学生は各自でコピーをとらなければならなかった。課題論文が多いときは、長時間コピー機の前に立ち複写するのだが、コピーカードに入金してもすぐにお金がなくなってしまうという状況だった。また、授業ではレポート課題が多く出されるため、参考文献等を調べるために図書館で長時間費やした。この時に大変お世話になったのが図書館員である。アメリカの大学図書館にはファカルティと呼ばれる専門職の図書館員がいて、ニーズに合わせた情報検索を支援してくれる。大学に必要とする論文や書籍等がない場合は、連携している他大学から迅速に取り寄せてくれた。特に私が個人的に大変お世話になった図書館員の方とは、私が日本に帰国後、彼女が来日した時に東京で再会したこともあった。

二つ目の魅力は、学習の場として、長時間滞在したくなる居心地の良さが提供されていることである。コロバスキャンパスの図書館は、光があふれる空間に大型テーブルが数多く設置されていたので、大きな机を独り占めして勉強でき、

あつという間に時間が過ぎてしまった。また、当時は大学院生であれば、図書館の勉強用の個室を1年契約で借りることができた。確か年間60ドル程度だったと思う。一人で考えたときや籠って勉強したいときはよく利用した。

三つ目はコミュニケーションの場としての魅力である。授業の課題として専門書や論文を読むこと以外に、複数で意見を交わし、とりまとめる課題があり、ガラス張りの明るいグループルームで、よくクラスメートたちとディスカッションをした。

さらに、オハイオ州立大学の図書館では、図書館内でのリサーチや学習面及びコミュニケーションを支援するだけでなく、図書館をさらに利用しやすくするサービスが充実していた。例えば、キャンパス内の各図書館の閉館時間は、23時、2時、または24時間利用可能など夜遅くまで勉強できるようになっていたが、図書館利用の安全面への配慮から、送迎をしてくれるエスコートサービスを提供していた。予約をすれば各図書館からキャンパス内の寮やアパート等まで送迎してくれるシステムがあった。私はキャンパス内のアパートに一時期住んでいたが、夜遅くまで図書館で勉強した日には、このサービスをよく利用した。

函館高専の図書館は規模が小さいが、大きな大学の図書館と違う魅力がある。滞在する場としての環境が素晴らしいことと学生主体の図書館であるということである。地元の画家による絵画の展示、スタッフによる季節や行事に合わせたデコレーション、留学生による各国の紹介パネル等、活気があふれている場であり、わくわくさせる雰囲気がある。また、学生が推薦する書籍を他学生に勧めるという学生主体の素晴らしい活動が行われている。地域、スタッフ、学生が連携して活性化させている図書館は、函館高専の数ある魅力の一つだと確信している。



# 学生の読書感想文

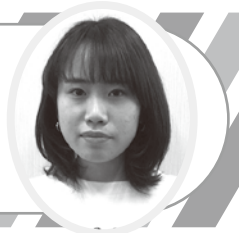
泊先生の日本語コミュニケーションⅡの授業で、ブックレビュー高評価本の読書感想文です。

## 『猫語の教科書』を読んで

タイトル：猫語の教科書  
著者名：ポール・ギャリコ  
出版社：筑摩書房



2年生産システム工学科  
機械コース  
中村 涼



タイトルだけ見ると飼い主のための本に見えるが、これは猫の猫による猫のための本である。

人間の家に乗っ取ることになった猫が、子猫達へ宛てて書いた指南書という設定に驚いた。まるで本当に猫が語っているのかと思ひ込ませるほどの構成であったため、著者は猫になりきって書けるほどに猫を愛し、よく観察しているのが窺える。家に乗った猫達が快適に過ごすためには、人間の心理をつかむのが重要だという。どんな家がいいのか、どんな仕草や表情が効果的か、何に注意を払うべき

かなど、賢く計算高いがとても愛らしい戦略がたくさん書かれている。

また、14章の「愛について」はそれまでの章とは雰囲気違って、「猫にとっての愛」についての考察だった。打算だけでない人間との関係を大切にしているのが伝わってきて、微笑ましく思った。

この作品は猫が苦手な人はきっと猫が好きに、猫が好きなのはもっと好きになるような一冊であった。

## 『星の王子様』を読んで

タイトル：星の王子様  
著者名：サン・テグジュペリ  
出版社：新潮社



2年生産システム工学科  
電気電子コース  
草刈 奏志



飛行士である僕が、エンジンの故障で砂漠に不時着してしまう。人里からかけ離れたその場所で、僕のゲンカイサバイバル活劇が始まる!と思いきや、乾燥無味な砂漠に突然の金髪の美少年!!すると、その少年は急に羊の絵を描いてほしいとねだってきます。この少年は一体何者なのだろうか、どこからやってきたのだろうか…?僕と少年の命は如何に?!見てくれは子供向け小説、しかし、中身は哲学書籍?!いえいえそんなに堅苦しく、難しくないのがこの本

のいいところなんですヨ。星の王子様から“大事なものに気づく”ヒント、とっても気になりませんか?著者はこの小説が好きすぎるとあるゲームとコラボしたときに夏休みのバイト代を全部溶かしてしまう程、全俺が全身全霊をもってしてドハマりしております!!大人になってしまっただけで失ったものは?友達とは?恋人とは?目に見えない大切なモノとは?さあ、王子様と一緒に星(答え)を巡る旅に出よう!!

## 『死んだら飛べる』を読んで

タイトル：死んだら飛べる  
著者名：スティーヴン・キング  
出版社：竹書房



2年生産システム工学科  
情報コース  
末武 悠



僕が読んだ本はスティーヴン・キングの『死んだら飛べる』という本です。この本には、ひとたび飛行機に乗ってしまったら何もできないが、その中で密室殺人が起こったり軍用機が戦争している中を通ったり、統計上では安全な飛行機でも統計では分からない恐ろしい出来事が17篇入っています。特に印象に残った「高度二万フィートの悪夢」は窓からガクガク揺れる翼にしゃがみ込み、右手を回転しているプロペラに伸ばしている人が見えてくるという

話で、その人が見えている機長と見えていない社員とのやりとりや機長の不安さが伝わってきて面白かったです。また、飛行機を「轟音をあげる死の殻」や、この先の出来事を「大荒れ」といった例えに注目するとこの本をより楽しめると思いました。

この本を読んで、普段は安全だと思っている飛行機も違う観点から見ると危険な点もあり、筆者の飛行機嫌いが分かる本でした。

## 『スマホ脳』を読んで

タイトル：スマホ脳  
著者名：アンデシュ・ハンセン  
出版社：新潮社



2年生産システム工学科  
情報コース  
駒嶺 侑希



私は『スマホ脳』という本をおすすめします。私  
がこの本をおすすめする理由は、スマホに対する意  
識がとても上がるからです。

皆さんは、日々何気にスマホを触っていると思いま  
す。その何気に触っているスマホを意識して使った  
ことがあるのでしょうか？なんとなくニュースをみ  
て、なんとなくゲームをしている人が多いのではな

いでしょうか？

それはスマホ依存症になりかけている証拠です。  
スマホは最新のドラッグです。

この本は、スマホに対する意識や考え方など今と  
なっては当たり前になっていることを今一度考えさ  
せられるあらすじになっているので、是非一度読ん  
でみてください。

## 『僕とおじいちゃんと魔法の塔』を 読んで

タイトル：僕とおじいちゃんと魔法の塔  
著者名：香月日輪  
出版社：角川書店



3年物質環境工学科  
加藤 りのあ



この本は主人公の龍神が幽霊のおじいちゃんに会  
い、成長していくお話です。誰もが一度は考えたこ  
とのある自分の在り方や周りの考えについて、再度  
見つめなおす時間をくれる物語です。私はこの本に  
小学校高学年の時に出会いました。小学生にとって  
の世界は学校と家族の二つが大きく占めており、そ  
れ以外の世界があることに気づきにくいものです。  
しかし、この本は同じような境遇の主人公がおじい  
ちゃんに出会い、自分で自分がどんな存在でありた

いのか考え、行動していく姿を読むことができます。

1巻では小学生だった主人公は、2巻から高校生  
となり、新しい個性的な仲間とともに物語は進みま  
す。修学旅行やテストなど、今の自分たちと近い年  
齢で進むため、共感できることや、納得する場面も  
多いです。毎日がつまらない人や、少し息苦しさを  
感じる人の人生のヒントとなると思いますので、ぜ  
ひ読んでみてください。

## 『密室黄金時代の殺人』を読んで

タイトル：密室黄金時代の殺人  
著者名：鴨崎暖炉  
出版社：宝島社



2年社会基盤工学科  
佐々木 奏汰



この本は密室殺人が合法化された世界を元に、著  
名なミステリー作家が遺したホテルで繰り返される  
密室殺人事件の謎を解き明かします。

おすすめしたいところは、次々と出てくる密室ト  
リックの内容とそれを解いていく爽快感です。

特に、「広義の密室」と最後の「16番目の密  
室」と「定義する密室」が面白いです。

「広義の密室」では、文章の節々にあるヒントや  
手がかりの隠し方と散らし方が上手く、「あの時の  
手がかりがここで」となるような解き方になってい

ます。

「16番目の密室」は、小説内で主人公と共に謎  
解きをする女子高校生の謎と、密室殺人が合法化さ  
れるきっかけとなった事件に繋がります。

そしてすべての密室に登場するトランプの存在  
も、それぞれの密室をつなげる重要なものとなって  
います。数字の意味に主人公たちが気づいたときの  
驚きや、次の殺人へのメッセージが含まれている面  
白さは今まで読んだミステリーの中で一番でした。  
ぜひ、読んでみてほしいです！

## 退職教員の読書のすすめ



社会基盤工学科  
澤村 秀治

### 武士道



この本の表紙には、「いま拠って立つべき“日本の精神”」とあります。現在の、なんとも不甲斐ない、なんとなくピリッとしなない日本の社会において、何か足りないものがここにがあるような気がしました。

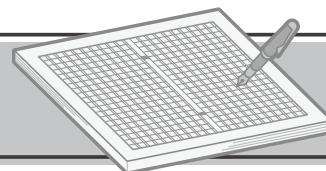
最初にこの本を手にとってみようと思ったのは、著者の新渡戸稲造は、日本の近代土木工学界の揺籃期における先駆者であった廣井勇とともに札幌農学校の2期生で同期だったからです。廣井勇を調べるうちに、新渡戸稲造に行き着きました。札幌農学校の2期生には、この他に内村鑑三（キリスト教思想家）など多くの著名人がいます。ちなみに“Boys, be ambitious!”で有名なクラーク博士は、札幌農学校の初代教頭として最初の8カ月しか在職していません。よって、新渡戸らはクラーク博士に直接師事していないことになりますが、クラーク博士が残したキリスト教に基づく人格

教育は、彼らに計り知れないものを与えました。

『武士道』には、古めかしい道徳や封建的因習が記述されているわけではありません。現代の私たちが忘れてしまった「日本人の伝統的精神」のようなものが、キリスト教の世界観と共に格調高く語られています。そもそも『武士道』は、原題を”Bushido-The Soul of Japan”といい、1899年にアメリカにおいて英文で出版されました。新渡戸は『武士道』を日本の伝統的精神として、「和製聖書」のように世界に見せようとしたと言われています。

日本の伝統的精神を主題とした『武士道』ですが、その中でも重きを置いたのは「義」です。平たく言えばフェアプレーの精神ですね。人生も後半の下り坂に差し掛かった私ですが、時折この本を手に取り、背筋を伸ばして、フェアプレーの精神を忘れずに行きたいと思っています。

## 【本校教員】執筆図書紹介



酒井 渉 (一般系)

『学生相談カウンセラーと考えるキャンパスの危機管理』(遠見書房)  
p 157~165 第12章 学生生活上のさまざまなリスクーカルト、薬物、アルコール、ブラックバイト、デートDV など執筆

いま注目を集めているカルトや、その2世の問題、デートDVなどについて、高等教育機関での予防啓発の必要性について述べています。どうしたら学生を危機から守れるか、という視点から書いています。臨床心理士(カウンセラー)は、個別カウンセリングのみならず、キャンパスの危機管理に深くかかわっています。

## 「教員推薦図書」コーナー

今年度も、先生方が学生みなさんにぜひ読んでほしい、活用してほしい本を選んでくれました。専門書以外にも読み物なども推薦してくれています。図書館内に展示していますので、たくさん利用してください！



# 新任教員からのおすすめ本



一般系  
牧之内 友

タイトル：宗教の見方

著者名：宇都宮輝夫

出版社：勁草書房



宇都宮輝夫『宗教の見方』勁草書房、2012年。  
宗教とは、信じるとは、宗教と社会の関係とは等々、先行研究を批判的に検討しつつ、丁寧に解きほぐして考察。堅実で篤学で時に辛辣。学問研究は斯くあるべし。学部の研究室（宗教学）の教官の一人だったので、読むとお声が耳朶に響く。やばい。文は人なり。

昔の人の話を読むのは楽しい。分からない言葉はググれる時代。イイネ!

宮本常一『家郷の訓』、山川菊栄『おんな二代の記』『わが住む村』、森崎和江『まっくら』、篠田篤造『増補 幕末百話』、福沢諭吉『福翁自伝』（以上、すべて岩波文庫）。中村きい子『女と刀』（ちくま文庫）。柳田國男『先祖の話』『山の人生』（ともに角川ソフィア文庫）。

現代なら氷室冴子（最近リバイバル!）、高島俊男、内田樹、米澤穂信、北村薫、米原万里。

漫画を読むのも楽しい。学生が主人公のものであれば、那州雪絵『ここはグリーン・ウッド』（花とゆめコミックス全11巻、白泉社文庫全6巻）がよい。男子高校の寮が舞台の学園青春群像劇。幽霊や宇宙人なども登場。大学のとき寮生だったので共感しながら読んだ。30年以上前の作品なので、いま読み返すといろいろ微妙な描写もあり、考えさせられる。コミックス版はいわゆる柱、1/4スペース（雑誌連載時の広告枠）の作者コメントで当時の世相・風俗を知ることができる。未読だが電子版あり。

佐々木倫子『動物のお医者さん』や吉野朔実『ぼくだけが知っている』、サラ・イイネス『大阪豆ごはん』、吉田秋生『海街dairy』などもお薦め。



一般系  
横山 泰範

タイトル：菜の花の沖（全6巻）

著者名：司馬遼太郎

出版社：文藝春秋



高専生の皆さん、本を読む習慣を付けましょう。1日15分でも、どんな本でも良いから毎日読みましょう。皆さんは高専で身につけた技術を武器に、将来世の中を渡り歩くことになるでしょう。そのとき、技術も当然ですが文章を書く力が大事になります。毎日活字に触れていると、どのように文章を書くかと他人に伝わるのかが、自然と身についてくるように思います。また、様々なジャンルの本を読むことで知識が増え、視野が広がると思います。今後、色々な人との会話にも役立つことでしょう。

私が紹介する本は、函館の街とも大変縁の深い、江戸時代後期に活躍した高田屋嘉兵衛の物語です。幼少期は故郷の淡路島で貧しく不遇な生活を送るが、若くして船乗りとなり日本中に様々な物を運ぶ廻船問屋に成長します。当時はさみしい漁村であっ

た函館（箱館）に拠点を構え、民間の立場から函館の発展・北海道開拓にも大きく貢献したことで、函館高専の皆さんならきっとご存じの人物だと思いません。彼の船乗りとしての技術は、運送業だけに留まらず、国後島・択捉島の航路開拓や、ロシアとの間で発生した国際問題の解決のためにも使われました。商人の立場であるにもかかわらず、常に公のことを考え問題に立ち向かった様子が描かれています。函館と繋がりがあある人物が、このように語り継がれていることに深い感慨を覚えましたので、今回皆さんに紹介しました。

授業・実験・課題・レポート作成と、忙しい毎日を送っていることと思いますが、皆さんには是非沢山の本を読んで頂きたいと思ひます。



今回私が参加させていただいたブックハンティングは、自分が書店で気に入った本を購入し図書館に置けるという、非常に魅力的なものでした。私は母の影響で小学生のころから本を読んでおり、今も図書委員会に入っています。今後は、もっとたくさんの人に図書館を利用してもらう方法を考えたいと思っています。(1年2組 山本康介)

初めてのブックハンティングは、自分が普段本屋さんに行くのとはまた違った楽しさがありました。時間が限られているなか予算内でどれだけの本を選べるかを考えるのがとても楽しかったです。時間がたくさんあったので自分が普段見ないようなジャンルの本も見ることができ、読みたいジャンルを広げることもできました。

(1年2組 長野あい)



今回の、ブックハンティングでは、これまで会うことができていなかった、素晴らしい本と出会うことができました。特に、自分がお勧めの本も選びましたが、それだけでなく周りが選んでいる本を見ることで、自分だけでは見つけることができない、新しい出会いがありました。よかったです。(1年5組 麻生耕希)

ブックハンティングを通して、本を探す楽しさを知ることができました。普段私が読んでいるジャンルではなく、普段はあまり選ばないようなジャンルを多く選びました。自分が選んだ本が届き、読むことができるのを楽しみに待っています。

(1年3組 鷲津心海)

## 図書委員会活動報告①

# ブックハンティング

7月8日(金)、奥崎真理子図書館長と図書委員、一般公募で参加した学生らが文教堂函館昭和店に集まり、ブックハンティングが開催されました。2時間たっぷり書店での本選びを堪能し、選んだ本に手作りのPOPを添えて図書館内に展示しました。



私は中学生まではあまり本を読んでいなかったで、本を買いに行くのが初めてで探し方などもよくわからなかったのですが、事前に調べて見つけていた読みたい本を友達と一緒に探すのが楽しかったです。読みたい本がたくさん見つかって、読むのがとても楽しみです。来年も参加したいと思いました。

(1年1組 久保亜矢花)

今回のイベントに参加してみた結果、図書館にある本の傾向を掴むことができ、そこからどのようなものが求められていてどのようなものが足りないのかを考えながら本を選定することができた。またそこから新たな分野を開拓していくためにどのようなところからのものが必要なのかも考えることができた。

(1年4組 山下夕輝)

好きな作者のほかの作品(新作など)を見つけることができうれしかった。また、普段は同じような本しか読まないため、新しく面白そうな本をいくつか見つけられて楽しかった。ブックハンティングへの参加が、読書意欲のいい刺激になったと思う。

(2年情報 前小屋蒼汰)

先日のブックハンティングに参加し、久しぶりの学校行事を楽しむことができました。本を実際に書店で選ぶことをあまりしたことがなかったので新鮮な体験をすることができました。選んだ4冊の本から一冊のポップを製作するので、みんなが読みたくなるようなポップを作りたいです。(5年機械 小澤智也)

自分の選んだ本が図書館に展示してあることが少し誇らしく思えた。みんな楽しそうにやっていてよかったと思う。これを機にたくさんの人がいろんな本とふれあい、たくさん本を読んでもくれるようになってほしいなと思いました。(1年5組 碓井洸貴)

今回の展示活動はとても楽しかったと思う。図書委員としておすすめの本を選びそれを読んでもらえるようにロゴの配置などを考えるのはとても面白かった。途中で関係のないようなロゴを貼ろうとした人もいたがそれはそれで面白かった。(1年2組 小野乃聖)



今回のおすすめの本を選ぶ活動では、今まで読んできたものを思い出しながら選びました。他にも読んでみたかった本や心に深く残っている本などを考えながら選び、また読み返すキッカケになったので良かったです。展示を見て、他の学生の方々などが本を読むキッカケになっていれば嬉しいです。(1年1組 阿部真佳)

今回の図書館で行われるイベントに初めて参加して、自分の好きな本を選びました。「どの本を展示しようかな」と選んでいる時間も楽しかったし、図書館の一部のスペースを使って、自分の選んだ本を置く棚の飾りつけも、図書委員の仲間と楽しみながらできたと思います。次のイベントがあったらぜひまた参加したいです。(1年3組 十文字花凛)

## 図書委員会活動報告② LL文庫企画展示

CCH(キャンパス・コンソーシアム函館)が企画するライブラリーリンクでは、共通のテーマに沿って各図書館が選んだ本を同時に展示する「LL文庫」を実施しています。今年のテーマ「この1冊に、ありがとう」に合わせ、図書委員一人一人がおすすめする本を選び、展示しました。



CCHの活動についてはこちらから

他の図書委員のおすすめの本を知るいい機会になりました。また、工夫されたPOPを見るとその本をより魅力的に感じました。様々なジャンルの本が展示され、みんなで装飾でき、楽しかったです。(1年5組 池上結太)

これまで図書委員会の人との交流があまりなかったので、今回の活動を通じて交流を深められた人がいたので良かったです。また、POPを書いたりおすすめ本を展示するという経験は初めてだったのでどのようにPOPを書いたり、どのような展示の仕方をすればたくさんの人に手にとって読んでもらえるのかを考えるのがとても楽しかったです。(1年4組 大家壮龍)



今回の活動で、自分以外の人のおすすめの本を知れて良かったです。POPもみんな工夫されていて、読んでみたいなと思いました。装飾作業も全員で協力しながらできてとても楽しかったです。今後もたくさん本を読んでいこうと思いました。(1年5組 菊地諒介)



NITH.LIB6314

イベント情報をはじめ、  
おすすめ本や図書館からのお知らせなどは、  
Instagramやホームページをご覧ください。



函館高専図書館

## 私の好きな本 『Steve Jobs』

私の好きな本は、タイムズ紙が2011年のベストブックに選んだ『Steve Jobs』です。自伝書籍ではありますが、スティーブ・ジョブズは他人の視点から自分を知ってもらいたいと考えたため、他人の視点から自分について書いた本です。

この本を読むと、彼がいかに無礼で、怒りっぽく、厳しすぎる男であったか、他人を「ゴミ」扱いして無視し、他人の考えを自分の考えのように語る男であったか、また、二の次にされることを



生産システム工学専攻2年  
バト 留学生(モンゴル出身)  
(ENKHBOLD BAT ERDENE)

嫌った男であったかがよく分かります。

しかし、私は彼を誇りに感じています。この本には、止められない夢、創造性、頑固さをどのように注ぎこむかについてのインスピレーションが606ページにわたって書かれており、実用ではなく生き方を提供し、独自の文化を持つ技術を所有するアップルの創業者、スティーブ・ジョブズの魅力が詰まっています。



図書館には、留学生の母国紹介の展示コーナーがあります。現在までに、モンゴル、ミャンマー、マレーシア、モロッコ、インドネシア、カンボジアの国々の学生による展示を見ることができます。



## 学年・学科別利用状況

学年・学科別 貸出冊数 (2022年4月1日-12月31日)

学年	組	1組	2組	3組	4組	5組				学年別計
1年		80	85	57	42	86				350
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	生産システム工学専攻	物質環境工学専攻	社会基盤工学専攻	学年別計
		機械コース	電気電子コース	情報コース						
2年		40	39	74	60	12				225
3年		17	34	30	96	17				194
4年		26	37	90	114	3				270
5年		72	155	51	13	80				371
専攻科1年							69	7	14	90
専攻科2年							67	3	8	78
										1,578

・クラス別平均貸出冊数は、**51冊**でした。昨年に比べて9冊アップ!

・一番多く本を借りたクラスは**5年電気電子コース**で、**155冊**でした。たくさん借りてくれてありがとう!

(総計)

## 編集後記

図書館だより第30号をお読みいただきありがとうございます。執筆してくださった学生、教職員の皆様のご協力により、今年も無事発行することができました。心よりお礼申し上げます。私自身、最近はずっかり紙媒体の本に触れる機会が減っていましたが、学生の皆さんの読書感想文やおすすめ本の記事を読んで、また本を読んでみようかなという気持ちになりました。

(総務課図書・情報係長 富田雄喜 記)

## 図書館だより NO.30

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
函館工業高等専門学校 図書館

函館市戸倉町14番1号  
TEL 0138-59-6314

表紙題字：社会基盤工学科教授 平沢 秀之